

ふるさと農園

7月の農園

楽しい時期です!

7月の農園は非常に忙しく、楽しい時期です。マクワやスイカが日に日に大きくなるのを見て楽しんでいきます。



青シソ、トマト、ピーマンと色での楽しみです。これから最盛期のゴーヤ、サヤ豆、オクラは収穫が楽しみです。



サツマイモ、里芋、ヤー



コン、ウコン等は夏から秋にかけて大きく成長してくれるでしょう。

S・O

とけいそう

カエルは水に帰る

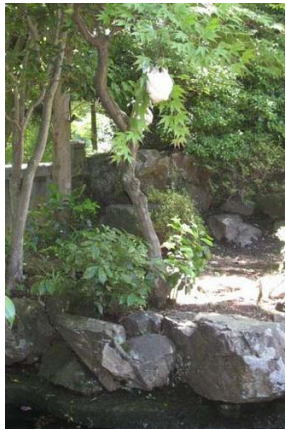
“人は土に還る”

柳谷観音の境内の池の真上にモリアオガエルの白い泡に包まれた卵塊がありました。この卵塊から孵化した幼生(おたまじゃくし)は下の水中に落下して蛙に成長します。また来年もこの水辺の樹枝に卵を産みつけて子孫を残してくれるでしょう。高槻北部の

檜田地区にも息を

しているそうです。

柳谷観音はJR大山崎から天王山を越えた所に位置し、眼病に良いお水が湧き出ている



事とあじさいの美しい事で有名で、観光バスでお参りコースにも入っています。私達は自分の足を

使って、天王山の急な登りコースを取りました。ここは戦国時代、羽柴軍と明智軍の勝敗を決した所で、勝敗の分け目を、天王山、というよう語源になったそうです。天王山の山腹から京滋バイパス周辺がよく見えます。普段自動車で乗っている

とあつという間ですが、鎧・甲冑をつけた軍勢が一刻を争って駆け抜けたことでしょう。

人生五十年とした織

田信長も大山崎で敗退した明智光秀も豪華絢爛の人生を送った羽柴秀吉も子孫繁栄に明け暮れた末に「土」に還っています。みんな現在の変わり様にさぞかし驚いている事でしょう。

S・U

建仁寺の四頭(よつがしら)茶会

“日本の文化に触れる一日”

例年春に京都の建仁寺さんで開かれる大茶会に毎年参加させてもらっています。茶道は若い頃に、ほんの少しかじった程度で不作法な私ですが、なぜか慣れない着物に身を包み、いそいそと出掛けるのでした。

建仁寺の中に散在する塔頭の寺院に、表千家、裏千家、煎茶の席がそれぞれ設けられ、あと本山の大方丈に「本席」があります。

朝の10時から夕方にかけて、この四つの茶席を回るのです。綺麗に手入れされた寺院の庭を背景に、亭主の見事なお点前に見入り、日頃お目に掛かることのないお道具を拝見させて頂き、美味しいお茶とお菓子を頂きます。

これらの茶席の中で一番楽しいのが「本席」です。本山の中の待合では紫や萌黄の衣を着た老師さんから茶会の説明等があり(建仁寺開山の栄西



禅師が中国より茶種を持ち帰り喫茶の作法を広められたそうです)、その後大方丈で若い修行僧達(一休さんや弁慶のような)が、縁高に入ったお菓子と高茶台に乗ったお茶を、ドストドと足音高く運んで来て、客人、一人一人の前で、抹茶が入った茶碗に湯を注ぎ、茶

筥でお茶を点ててくれます。この作法は実際に僧侶の食事の後の茶会で行われている作法そのものだそうです。いつもは修行僧が行き交う寺院内も、この日ばかりは思い思いの着物で着飾った御婦人方で(殿方も少しは居られますが)賑わいます。茶会を通して茶花、お道具、書、もてなしの心、.....日頃忘れていた日本の文化に少し触れる一日です。

K・T

四季彩 兵庫県 宍粟市 山崎菖蒲園 “27年の歴史ある菖蒲園”

播州山崎 花菖蒲園は中国自動車道 山崎ICを降りて揖保川沿いに5分ほど行ったところにあります。6月15日、天気は梅雨の最中で雨がはげしく降っていましたが、時々陽もさしたりして、雨にしっかりとぬれた花々は色鮮やかに見ることが出来ました。 T・N

